

Ⅱ 委託研究課題概要

＜研究概要様式＞

【2020年度採択 連携研究スキームによる研究】

課題番号(e-Rad 課題 ID): 20352115

研究テーマ: ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な確保のための国際市場に関する研究」

委託研究課題名: 「北米地域における日系商社の穀物フードチェーンと日本の穀物実需産業に関する研究」

1 研究実施期間(西暦): 2020年度～2022年度(3年間)

2 予算規模: 10,000千円(2020年度)

3 中核機関・役職・研究総括者
東京農業大学 教授 堀田 和彦

4 研究の目的・達成目標

食料安全保障の観点から、穀物輸入先である北米(アメリカ・カナダ)地域の穀物産業の構造、日本における穀物貿易のフローの特質及び日系商社が形成する穀物フードチェーンを明らかにする。また、穀物フードチェーンの形成に影響を及ぼす日本の穀物実需産業の実態を解明することを目標とする。

5 研究の内容および実施体制

① 日本における穀物の実需産業の分析

穀物の実需先として配合飼料製造業の競争構造や原料調達や製品販売といった企業行動、畜産経営の概況と経営における飼料利用の実態を分析する。

(担当: 東京農業大学国際食料情報学部)

② 日本の穀物貿易フローと日系商社による穀物フードチェーンの分析

日本の穀物貿易フローの特質や規定要因を定量分析により検討し、貿易戦略の方向性を明らかにする。また、北米地域での穀物調達、輸出から日本での輸入・販売に至る連鎖構造と日系商社の企業行動について解明する。

(担当: 東京農業大学国際食料情報学部)

③ アメリカの穀物産業構造及び関連政策に関する分析

アメリカにおける穀物・油糧種子の産業構造と動態(2000年以降と最新の到達点)を、川上の穀物生産段階から川下の加工・輸出段階までの商品・産業連鎖として把握し、分析する。

(担当: 九州大学大学院農学研究院)

④ カナダの穀物産業構造及び関連政策に関する分析

NAFTA(北米自由貿易協定)の下で形成された北米地域の穀物産業の一体化と、カナダにおける穀物・油糧種子の流通・加工・輸出の構造変化について分析する。

(担当: 立命館大学食マネジメント学部)

6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

政策研究と委託研究が解明した南米・北米地域の穀物産業構造や日系商社の企業行動を統合することで、グローバルな競争構造や企業の穀物調達戦略を解明し、食料安全保障に向けた輸入の多元化の可能性を展望できる。

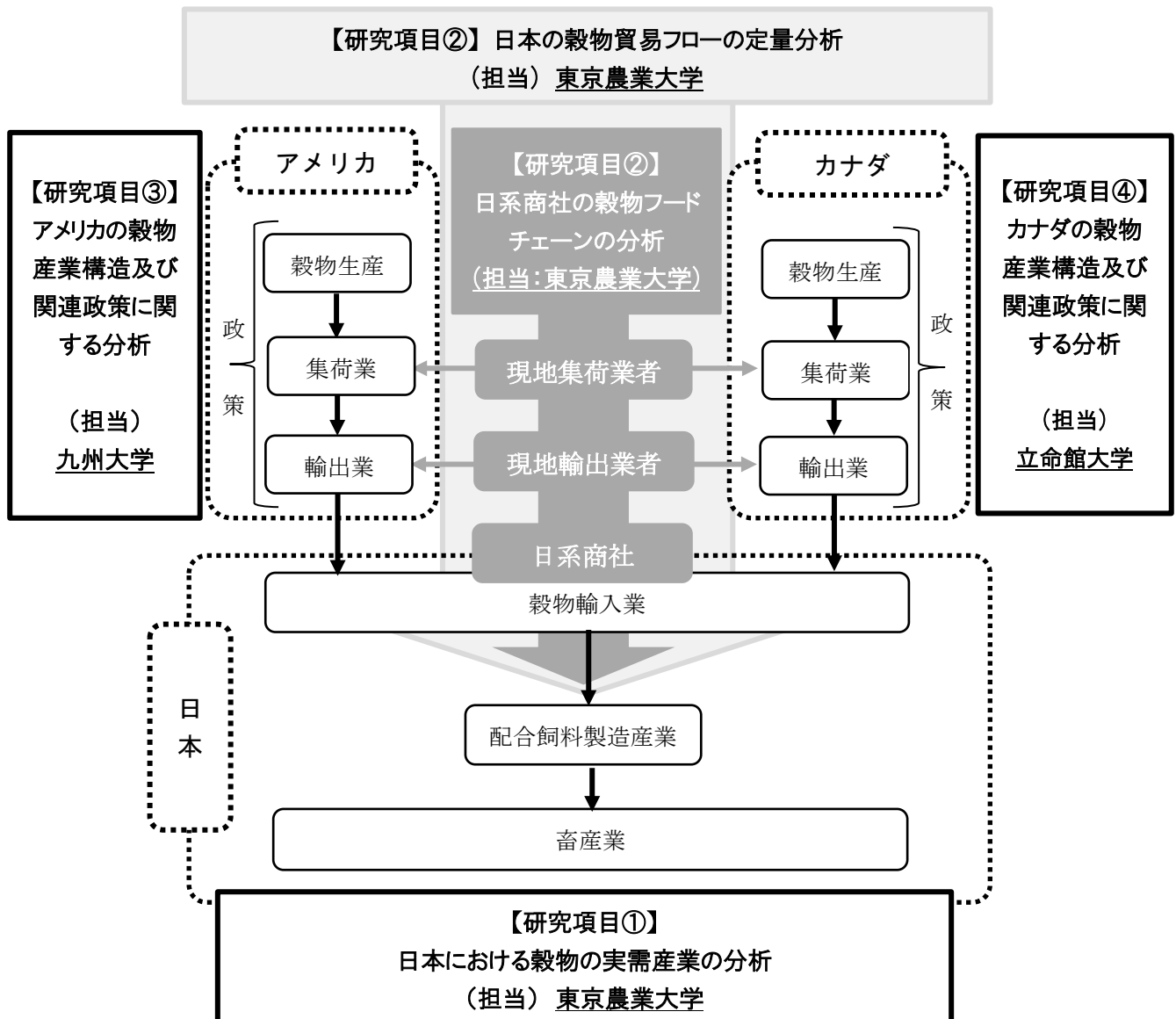
【連絡先: 東京農業大学国際食料情報学部(学部事務室) 03-5477-2918】(中核機関の連絡先)

< 研究概要図 >

委託研究課題名	北米地域における日系商社の穀物フードチェーンと日本の穀物実需産業に関する研究
---------	--

【委託研究の目的・達成目標】

北米地域における日系商社の穀物フードチェーンと日本の穀物実需産業の実態を解明
 →食料安全保障における穀物輸入の現状や海外調達の安定化・多角化を進める上での阻害要因や課題を明らかにし、今後の方策に対する提言を行う



【政策研究との連携の意義、期待される波及効果】

- 南米・北米地域を包括したグローバルな競争構造や先進国企業の穀物調達戦略を解明
- 南米地域と北米地域の穀物の価格形成や品質調整等を詳細に比較検討することによって穀物輸入における多元化の可能性を検証